

手話通訳者 全国統一試験に合格



高清水 徹子さん (入江1区)

昨年12月に行われた社会福祉法人全国手話研修センターが主催する平成26年度手話通訳者試験に、合格率約10%の難関を突破し合格しました。

ろう者の家庭で育ち、両親との日常的な会話は、幼少時から身に着けていましたが、ろう者の家庭で育ち、両親との日常的な会話は、幼少時から身に着けていましたが、



平成19年に町から手話通訳者としての登録を依頼されたことをきっかけに、手話について深く考えるようになりました。

平成25年に通訳者の資格を取得している人と知りあうことで、本格的に勉強を開始。家事と仕事の合間を縫って養成講座に通う生活は大変で、その年の暮れの試験では、不合格となり、今回2度目の挑戦で合格を果たしました。

「家族や職場の理解があったからこそ合格できた」と喜びの前に感謝の言葉がでます。

通訳者として「言語条例の設置など手話の理解とそれを通じてろう者への理解を深める活動も行っていきたい」と地域社会での啓もう活動も視野に入れています。

伏見橋崩落調査委員会が報告書提出



崩落した伏見橋

3月16日、町が設置した伏見橋崩落調査委員会が、昨年11月7日発生した伏見橋崩落の事故原因について、報告書をまとめ、真屋町長に提出しました。

崩落原因については、伏見橋周辺の地域が斜面の浸食域に位置し、水にもろい軽石流堆積物が分布する地形・地質的特性があることが判明。現地調査の結果、恒常的な湧水が主な誘因となり、他に降雨（表流水）や凍上、地震などの影響も作用して浸食崩壊が下流から上流に向かい進行し、橋梁部に到達したことにより橋台が崩落するに至ったものと推定しました。

復旧については、関係機関と協議を進めています。報告書全文は、町のホームページに掲載しています。

洞爺湖温泉利用協同組合 北海道経済産業局長顕彰受賞

洞爺湖温泉利用協同組合（若狭洋市代表理事）が、「地域でがんばる中小企業・小規模事業者」北海道経済産業局長顕彰を受賞しました。

同組合は、昭和35年に北海道初の温泉資源を共同管理する事業協同組合として創立。地域の全源泉の維持・管理を行い、温泉を安定的に供給している事業活動が評価されました。

若狭代表理事は「受賞を励みに今後も地域への貢献を続けていきたい」と話しました。



北海道経済産業局長顕彰の賞状を手にする若狭代表理事

広告